

アオサナエ



区分	宮崎県版レッドリスト: 準絶滅危惧
分布	本州・四国・九州に分布し、日本のみで生息する固有種。 ⁽³⁾
生態	平地や丘陵地、低山地の清流に生息する流水性トンボ類で、幼虫は砂れき状の河床を好む。幼虫期間は 2~3 年程度で、成虫は 5 月下旬~6 月にみられる。未熟な成虫は羽化した水域から離れた丘上の林によくみられ、成熟すると、オスは川辺の植物や石、砂地に止まって縄張りを形成する。 ⁽¹⁾⁽²⁾
配慮事項	河川改修工事により幼虫の生息環境となる河床が大きく変化する場合は、可能な範囲での生息環境の維持または新たな生息環境の創出などの配慮が考えられる。

(1) 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説、石田昇三ほか、1988

(2) ネイチャーガイド 日本のトンボ、尾園暁ほか、2012

(3) 日本昆虫目録 第 2 巻 旧翅類、日本昆虫学会、2016

カラスシジミ



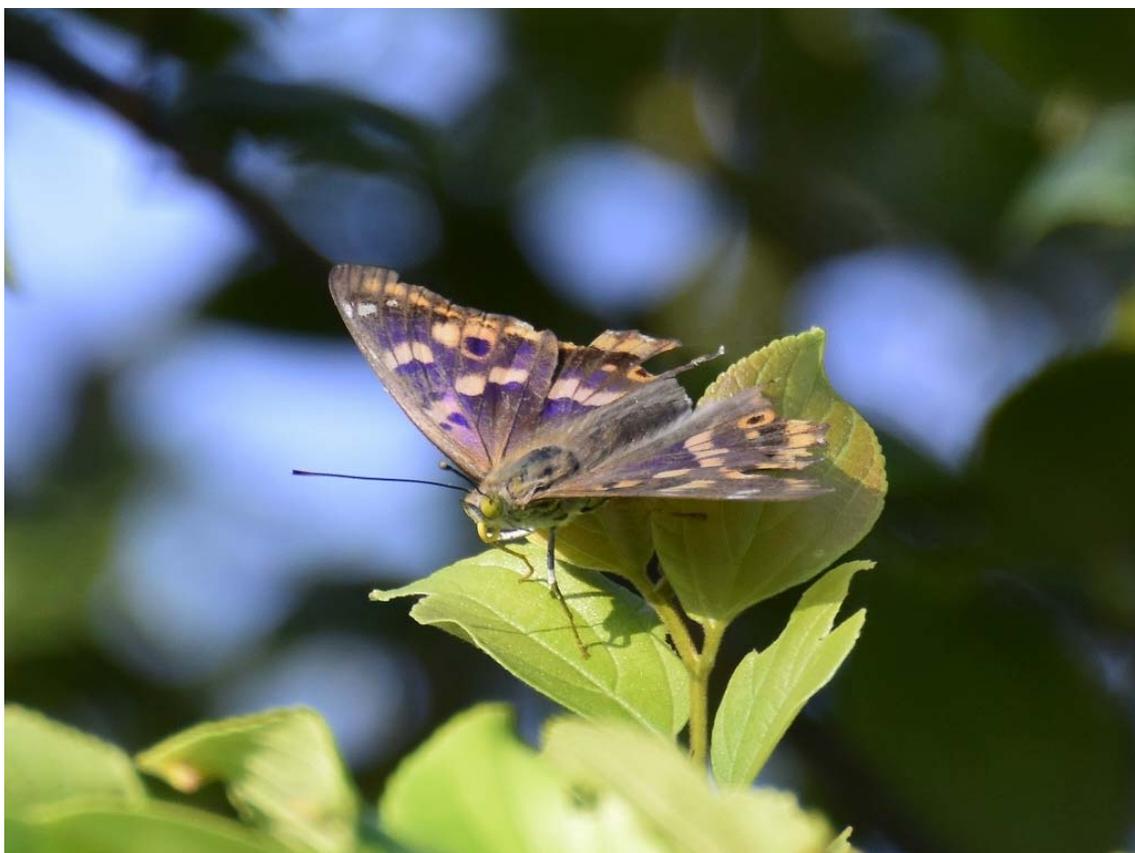
区分	宮崎県版レッドリスト:準絶滅危惧
分布	北海道・本州・四国・九州のほか、千島(国後島)・利尻島・奥尻島・隠岐諸島に分布する。 ⁽³⁾
生態	低山地～山地の河川沿いの樹林や山間の渓谷に生息する。幼虫は2月頃ふ化し、ハルニレなどのニレ類のつぼみや花などを食べ、木の幹や根周辺の樹皮裏などで蛹になる。成虫は、九州の平地～低山地では5月中旬～6月中旬にみられ、日当たりのよい林縁や林内あるクリやヒメジョオンの花などによく訪れる。 ⁽¹⁾⁽²⁾
配慮事項	河川改修工事の実施により河畔林を改変する場合は、発生木周辺の環境を維持するなどの配慮が考えられる。

(1) 日本産蝶類標準図鑑、白水隆、2006

(2) フィールドガイド日本のチョウ、日本チョウ類保全協会、2012

(3) 日本昆虫目録 第7巻 第1号 鱗翅目(セセリチョウ上科-アゲハチョウ上科)、日本昆虫学会、2013

コムラサキ



区分	宮崎県版レッドリスト: 準絶滅危惧
分布	北海道・本州・四国・九州に分布する。 ⁽¹⁾
生態	主な生息地は河川敷に多く生育するヤナギ類の林であり、公園内樹木や街路樹として植えられたヤナギ類を利用することもある。幼虫はヤナギ類の葉っぱを食べて成長し、成虫は主にヤナギ類やクヌギ、コナラなどの樹液を吸汁する。なお、コリヤナギおよびイヌコリヤナギの葉っぱは幼虫の餌にはならない。 ^{(1) (2)}
配慮事項	河川における生息状況を把握した上で、伐採箇所を決定する、改変箇所へヤナギ類を植樹するなどの配慮が考えられる。 ⁽¹⁾

(1) 川の生物図典、財団法人 リバーフロント整備センター、1996

(2) フィールドガイド日本のチョウ、日本チョウ類保全協会、2012

コガタノゲンゴロウ



区分	環境省レッドリスト:絶滅危惧Ⅱ類 宮崎県版レッドリスト:準絶滅危惧
分布	本州・四国・九州のほか、南西諸島・小笠原諸島に分布する。 (1) (2)
生態	主に平地の水草の多い池沼、湿地や水田、休耕田、水たまり、水路などに生息する止水性のゲンゴロウ類。幼虫・成虫ともに一年中みられる。成虫の寿命は2~3年で、4~7月に水草に産卵し、幼虫は水生昆虫やオタマジャクシを捕食する。岸辺の土中で蛹になった後、約2ヵ月で成虫となる。成虫も肉食であるが、水草も食べる。(1) (2) (3)

(1) 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ、森正人・北山昭、2002

(2) レッドデータブック 2014ー日本の絶滅のおそれのある野生生物ー 5 昆虫類、環境省、2015

(3) ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシ ハンドブック、三田村敏正ほか、2017

ウスイロシマゲンゴロウ



区分	宮崎県版レッドリスト:準絶滅危惧
分布	関東以西の本州・四国・九州・南西諸島に分布する。 ⁽¹⁾
生態	水生植物が豊富な池沼や湿地、休耕田などに生息する止水性ゲンゴロウ類。幼虫は4~5月、成虫は一年中みられる。 ⁽²⁾

(1) 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ、森正人・北山昭、2002

(2) ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシ ハンドブック、三田村敏正ほか、2017